

## 豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

### 1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	水辺とのふれあいの推進事業								
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	土木課	係	土木係	評価票作成者	課長補佐兼治水担当係長 市川 一成	
1-3 総合計画における施策の体系	節	生活環境 「安全・安心で、うるおいのあるまちづくり」			基本施策	水辺空間の保全と再生		コード	1 2 1
	項	水と緑の環境づくり			単位施策(中)	水辺とのふれあいの推進		コード	1 2 1 3
					単位施策(小)	水辺環境ボランティアの育成		コード	1 2 1 3 2
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	水環境に関心のある市民		意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）		水辺を守る市民が、水辺環境を考える会を結成してボランティア活動を通じて自然保護活動を行っている。			
1-5 事務事業の内容	各川流域の住民・関係者・NPO等と協力して、各川の水環境を考える会の創設の手助けを行っていきます。共同で各川の巡回監視を行います。								

### 2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	未実施	川・ため池の環境に対する市民監視は重要である。		川・ため池で自然に触れ合える良好な環境づくりができるボランティア団体を望んでいる。	
	平成19年度	〃	〃		〃	
	平成20年度	市民協働課の協力を得て関係団体をお願いする。	〃		〃	
	平成21年度	〃	川・ため池の環境に対する意識をボランティアを通じて向上させていくことが重要と考える。		〃	
	平成22年度	市民協働課の協力を得て関係団体をお願いする。				
	平成23年度	市民協働課の協力を得て関係団体をお願いする。				
	平成24年度	市民協働課の協力を得て関係団体をお願いする。				
	平成25年度					
	平成26年度					
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名			前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明				
	水辺を守る市民団体数(団体)			2(団体)	4(団体)	若王子川・井堰川・正戸、阿野川・皆瀬川の流域ごとに1団体				

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(単位)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	直接事業費 b(千円)	0	0	1(団体)	1(団体)	1(団体)	1(団体)	1(団体)			
	人件費 c(千円)	0	0	0	0	3	3	3			
	合計コスト d(b+c)(千円)	0	0	0	0	3	3	3			
	単位コスト d/a(千円)	0	0	0	0	3	3	3			
		当たり	当たり	当たり	当たり	1団体当たり 3	1団体当たり 3	1団体当たり 3	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 一つの市民団体が皆瀬川の清掃等の活動を月1回行っている。参加人数は平均15名程度 (四季の物語紡ぎ隊) コストは草刈機のカソリン代等で3千円を負担

2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(団体)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	後期目標値に対する達成度(%)	0	0	1	1	1	1	1	1		
		0	0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0		

### 3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果 (アウトカム自己分析)	単年度 担当課評価	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
				B	B	B	B	B			

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する  
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要  
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要  
 D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- 必要性(必要な事務事業であるか)  
 公共性(公が実施する意味があるか)  
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)  
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)  
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)  
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	なし	なし	なし
	平成19年度	"	"	"
	平成20年度	多くの市民が参加できること。	市民協働課と協力して各団体へ協力をお願いする。	徐々に進んできている。
	平成21年度	団体の活動を広く市民に伝えること。	団体と協力して参加者を増やすこと。	徐々に進んできている。
	平成22年度	団体の活動を広く市民に伝えることで、関心を持ってもらう。		
	平成23年度	団体の活動を広く市民に伝えることで、関心を持ってもらう。		
	平成24年度	団体の活動を広く市民に伝えることで、関心を持ってもらう。		
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

### 4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果	結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	-	
平成19年度		
平成20年度	B	水辺環境を守る具体的な手法を検討し、市民意識の向上を図ること。
平成21年度	B	水辺環境についての講座などを実施し、市民意識の向上を図り、ボランティアを増やしながら事業を実施すること。
平成22年度	B	水辺環境についての講座などを実施し、市民意識の向上を図り、ボランティアを増やしながら事業を実施すること。
平成23年度	B	水辺環境についての講座などを実施し、市民意識の向上を図り、ボランティアを増やしながら事業を実施すること。
平成24年度	B	周知、啓発策等検討し、ボランティア団体の育成、増加を図ること。
平成25年度		
平成26年度		
平成27年度		